

タイトル「**2023年度大学院危機管理学研究科(公開用)**」、フォルダ「**大学院危機管理学研究科**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー							
科目名	危機管理学研究演習Ⅱ						
担当教員	杉山 幸一						
対象学年	1年,2年	開講学期	後期				
曜日・時限	金 4						
講義室	1302	単位区分	必				
授業形態	演習	単位数	1				
科目大分類	統合演習						
科目中分類	危機の大学院修士課程カテゴリ						
科目小分類	4 統合・演習						
科目の位置付け（開発能力）	■D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP2 [学識・専門技能] 災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための、法学、政治学、国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能（25%） DP3 [思考力・判断力・表現力] 客観的な情報やデータをもとに論理的に考察し説得的に表現する力（50%） DP4 [主体性・多様性・協働性] 多様な価値観や立場を尊重しつつ、自らの明確な考えをもとに、他者とコミュニケーションを確立する能力（25%）						
教員の実務経験	特になし。						
成績ターゲット区分							
科目概要・キーワード	危機管理学とその基礎となる法学に関する研究活動を実践するために、必要な社会科学的研究手法を学び、学生が自らテーマを設定し、論文を執筆し、成果を発表するための指導を行う。本演習では、危機管理学、法学に関する研究論文の執筆にあたっての、論文のアウトライン策定と考察・叙述、ディスカッションの活性化、プレゼンテーションの実質化を含む基礎的研究プロセスを扱う。これらの研究プロセスを通じて、学識・専門技能に加え、判断力・思考力・表現力、更には主体性・計画性・協働性等の汎用的能力を開発することを目的とする。 授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード： 研究手法、テーマ探求、先行研究、資料収集、資料分析						
授業の趣旨	■副題 立憲主義に基づく危機管理研究の研究計画 ■授業の目的 危機管理と憲法学に関する社会問題の整理、先行研究の調査等を通じて新規性・有用性のある研究テーマを探索します。これらの学修を通じて、学識・専門技能に加え、意欲・経験・適性、判断力・思考力・表現力、主体性・計画性・協働性といった各汎用的能力を開発することを目的とします。 ■授業のポイント 当科目では、学生による2カ年間の自主的な研究活動の第一段階として、憲法学的アプローチによって解決すべき危機管理上の社会的課題の探求、先行研究の検索と整理・検討からはじめて、その問題解決を学術的に研究するための研究計画を立案します。その後、研究計画に基づき、先行研究の読み込み、社会的課題の解決策、その仮説を立証するに必要なポイントの整理と研究を行っていきます。						
総合到達目標	■危機管理に関する憲法学的課題に対し、強い関心をもって客観的に洞察することができる。 ・危機管理上の問題を、自己の経験や目標と関連付け、研究意欲につなげることができる（第1回～15回）。 ・危機管理上の問題について、学術的な研究対象として洞察することができる（第1回～15回）。 ■危機管理学に関する問題を法学的研究手法によって分析することができる。 ・危機管理上の問題を、憲法学や行政法学などの公法学の理論や概念に基づいて読解することができる（第1回～15回）。 ・危機管理上の問題に関連する法学的研究の収集と分析を体系的に行うことができる（第1回～15回）。 ■危機管理学に関する課題を論理的に解釈し、その成果を適切に表現することができる。 ・危機管理や憲法、行政法など法律に関する資料や学術論文について、用語の意義や文脈を適切に把握しつつ、活用可能な知識として取り込むことができる（第1回～15回）。 ■危機管理に関する心理学的問題について、客観的・論理的なコミュニケーションを通じて議論することができる。 ・危機管理上の諸課題について、目的、構成、内容に配慮しつつ、法学領域の規律に従い、口頭又は文章によるコミュニケーションを適切にとることができる（第1回～15回）。						
成績評価方法	■授業参加度（15回）60%（DP2,DP3,DP4） （評価の観点）学術的な姿勢、計画性や実行力を評価します。 （フィードバックの方法）授業中にフィードバックします。 ■研究進捗報告（4回）40%（DP2,DP3,DP4） （評価の観点）学術研究としての水準、プレゼンテーションの技術、配布資料の完成度を評価します。 （フィードバックの方法）授業中に講評を行います。						
履修条件	特になし。						
履修上の注意点	法令に触れる必要があることから六法を持てくこと。						
授業内容	<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>1</td><td>①授業テーマ ガイダンス ②授業概要</td></tr></table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要		
回	内容						
1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要						

	当該科目の到達目標や授業計画、授業運営や成績評価方法について、ガイダンスを聞き、個別質問をすることで想起できるようになる(DP-1, 3, 4)。 ③予習 (120分) シラバスの内容を精読し、当科目の学修計画を作成する。 ④復習 (120分) 講義ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。
2	①授業テーマ 危機管理に関する憲法学に関する基礎的研究プロセス (1) ②授業概要 危機管理と憲法学的研究の基礎的研究のプロセスを実践するため、研究計画に基づく修士論文のアウトライン策定と考察、ディスカッション、プレゼンテーションの実質化が行えるようになる (DP1, 2, 3, 4)。 ③予習 (120分) 危機管理と憲法学的研究の基礎的研究のプロセスを実践するために、プレゼン資料を作成する。 ④復習 (120分) ディスカッションでの論点や他者の意見を整理し、各主張の論拠となる先行研究の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
3	①授業テーマ 危機管理に関する憲法学に関する基礎的研究プロセス (2) ②授業概要 危機管理と憲法学的研究の基礎的研究のプロセスを実践するため、研究計画に基づく修士論文のアウトライン策定と考察、ディスカッション、プレゼンテーションの実質化が行えるようになる (DP1, 2, 3, 4)。 ③予習 (120分) 危機管理と憲法学的研究の基礎的研究のプロセスを実践するために、プレゼン資料を作成する。 ④復習 (120分) ディスカッションでの論点や他者の意見を整理し、各主張の論拠となる先行研究の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
4	①授業テーマ 危機管理に関する憲法学に関する基礎的研究プロセス (3) ②授業概要 危機管理と憲法学的研究の基礎的研究のプロセスを実践するため、研究計画に基づく修士論文のアウトライン策定と考察、ディスカッション、プレゼンテーションの実質化が行えるようになる (DP1, 2, 3, 4)。 ③予習 (120分) 危機管理と憲法学的研究の基礎的研究のプロセスを実践するために、プレゼン資料を作成する。 ④復習 (120分) ディスカッションでの論点や他者の意見を整理し、各主張の論拠となる先行研究の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
5	①授業テーマ 危機管理に関する憲法学に関する基礎的研究プロセス (4) ②授業概要 危機管理と憲法学的研究の基礎的研究のプロセスを実践するため、研究計画に基づく修士論文のアウトライン策定と考察、ディスカッション、プレゼンテーションの実質化が行えるようになる (DP1, 2, 3, 4)。 ③予習 (120分) 危機管理と憲法学的研究の基礎的研究のプロセスを実践するために、プレゼン資料を作成する。 ④復習 (120分) ディスカッションでの論点や他者の意見を整理し、各主張の論拠となる先行研究の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
6	①授業テーマ 危機管理に関する憲法学に関する基礎的研究プロセス (5) ②授業概要 危機管理と憲法学的研究の基礎的研究のプロセスを実践するため、研究計画に基づく修士論文のアウトライン策定と考察、ディスカッション、プレゼンテーションの実質化が行えるようになる (DP1, 2, 3, 4)。 ③予習 (120分) 危機管理と憲法学的研究の基礎的研究のプロセスを実践するために、プレゼン資料を作成する。 ④復習 (120分) ディスカッションでの論点や他者の意見を整理し、各主張の論拠となる先行研究の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
7	①授業テーマ 危機管理に関する憲法学に関する基礎的研究プロセス (6) ②授業概要 危機管理と憲法学的研究の基礎的研究のプロセスを実践するため、研究計画に基づく修士論文のアウトライン策定と考察、ディスカッション、プレゼンテーションの実質化が行えるようになる (DP1, 2, 3, 4)。 ③予習 (120分) 危機管理と憲法学的研究の基礎的研究のプロセスを実践するために、プレゼン資料を作成する。 ④復習 (120分) ディスカッションでの論点や他者の意見を整理し、各主張の論拠となる先行研究の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
8	①授業テーマ 危機管理に関する憲法学に関する基礎的研究プロセス (7) ②授業概要 危機管理と憲法学的研究の基礎的研究のプロセスを実践するため、研究計画に基づく修士論文のアウトライン策定と考察、ディスカッション、プレゼンテーションの実質化が行えるようになる (DP1, 2, 3, 4)。 ③予習 (120分) 危機管理と憲法学的研究の基礎的研究のプロセスを実践するために、プレゼン資料を作成する。 ④復習 (120分) ディスカッションでの論点や他者の意見を整理し、各主張の論拠となる先行研究の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
9	①授業テーマ 危機管理に関する憲法学に関する基礎的研究プロセス (8) ②授業概要 危機管理と憲法学的研究の基礎的研究のプロセスを実践するため、研究計画に基づく修士論文のアウトライン策定と考察、ディスカッション、プレゼンテーションの実質化が行えるようになる (DP1, 2, 3, 4)。

	③予習（120分） 危機管理と憲法学的研究の基礎的プロセスを実践するために、プレゼン資料を作成する。 ④復習（120分） ディスカッションでの論点や他者の意見を整理し、各主張の論拠となる先行研究の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
10	①授業テーマ 危機管理に関する憲法学に関する基礎的研究プロセス（9） ②授業概要 危機管理と憲法学的研究の基礎的プロセスを実践するため、研究計画に基づく修士論文のアウトライン策定と考察、ディスカッション、プレゼンテーションの実質化が行えるようになる（DP1, 2, 3, 4）。 ③予習（120分） 危機管理と憲法学的研究の基礎的プロセスを実践するために、プレゼン資料を作成する。 ④復習（120分） ディスカッションでの論点や他者の意見を整理し、各主張の論拠となる先行研究の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
11	①授業テーマ 危機管理に関する憲法学に関する基礎的研究プロセス（10） ②授業概要 危機管理と憲法学的研究の基礎的プロセスを実践するため、研究計画に基づく修士論文のアウトライン策定と考察、ディスカッション、プレゼンテーションの実質化が行えるようになる（DP1, 2, 3, 4）。 ③予習（120分） 危機管理と憲法学的研究の基礎的プロセスを実践するために、プレゼン資料を作成する。 ④復習（120分） ディスカッションでの論点や他者の意見を整理し、各主張の論拠となる先行研究の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
12	①授業テーマ 危機管理に関する憲法学に関する基礎的研究プロセス（11） ②授業概要 危機管理と憲法学的研究の基礎的プロセスを実践するため、研究計画に基づく修士論文のアウトライン策定と考察、ディスカッション、プレゼンテーションの実質化が行えるようになる（DP1, 2, 3, 4）。 ③予習（120分） 危機管理と憲法学的研究の基礎的プロセスを実践するために、プレゼン資料を作成する。 ④復習（120分） ディスカッションでの論点や他者の意見を整理し、各主張の論拠となる先行研究の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
13	①授業テーマ 危機管理に関する憲法学に関する基礎的研究プロセス（12） ②授業概要 危機管理と憲法学的研究の基礎的プロセスを実践するため、研究計画に基づく修士論文のアウトライン策定と考察、ディスカッション、プレゼンテーションの実質化が行えるようになる（DP1, 2, 3, 4）。 ③予習（120分） 危機管理と憲法学的研究の基礎的プロセスを実践するために、プレゼン資料を作成する。 ④復習（120分） ディスカッションでの論点や他者の意見を整理し、各主張の論拠となる先行研究の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
14	①授業テーマ 危機管理に関する憲法学に関する基礎的研究プロセス（14） ②授業概要 危機管理と憲法学的研究の基礎的プロセスを実践するため、研究計画に基づく修士論文のアウトライン策定と考察、ディスカッション、プレゼンテーションの実質化が行えるようになる（DP1, 2, 3, 4）。 ③予習（120分） 危機管理と憲法学的研究の基礎的プロセスを実践するために、プレゼン資料を作成する。 ④復習（120分） ディスカッションでの論点や他者の意見を整理し、各主張の論拠となる先行研究の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
15	①授業テーマ 授業総括 ②授業概要 授業総括を通じて、当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになるとともに、授業参加度のフィードバックを通じて学識・専門技能、意欲・経験・適性、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性に関する気づきや成長について具体例を挙げながら説明することができる（DP-1, 2, 3, 4）。 ③予習（120分） 授業ノートと配布資料を読み直し、科目を通じて自分が修得した知識・技能・態度を論じられるように準備する。 ④復習（120分） 授業総括および教員からのフィードバック内容を振り返り、自分の考えを再検証する。修士論文執筆のための構想を立てられるように準備する。
関連科目	危機管理学研究演習Ⅱ、危機管理学研究演習Ⅲ、危機管理学研究演習Ⅳ
教科書	教科書は使用しません。
参考書・参考URL	授業内で適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に伝えます。 ■オフィスアワー 開講年度のオフィスアワーリストをご確認ください。それ以外の時間帯については、メールで事前にアポイントメントを取って下さい。
研究比率	■危機管理と法学のバランス 危機管理20%; 法学80%

